

## II. 分担研究報告

### 1. 平成29年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（精神障害分野））「重度かつ慢性の精神障害者に対する包括的支援に関する政策研究—関連研究班の統括・調整研究」（H29-精神-一般-003） 分担研究：心理社会的治療の研究 報告書

分担研究者 井上新平 （社会医療法人北斗会 さわ病院 医師）

**研究目的：**重度かつ慢性の患者の地域移行、地域定着のための包括的支援アプローチの中に組込まれるべき心理社会的治療／方策を明らかにし指針として提示することを目的とした。そのために平成 25 年～27 年に行われた「精神障害者の重度判定及び重症患者の治療体制等に関する研究」を受け、長期入院患者の地域移行に取り組んでいる好事例病院を対象に個々の取り組みに加えて治療体制等を調査しようとした。

**研究の実施経過：**好事例病院を①アドバイザーグループメンバーの推薦、②上記の研究で長期入院の退院が多かった病院から 64 病院を選定し、病院規模・保有施設・地域性等を考慮して調査対象病院を 16 病院に絞り訪問調査と症例の治療経過の調査を行なった。

#### 研究結果の概要：

1. 退院の発議では退院可能な患者の見落としを防ぐために組織的検討・多職種による検討が行われている。
2. 発議後のプロセスでは計画→実行→評価→改善の PDCA サイクルが見られプログラムの内容は随時変更され、病院レベルでの評価も含めて頻回に治療経過がチェックされている。
3. 治療に関わるスタッフは看護師主体、

看護師に加えて作業療法士あるいは精神保健福祉士など病院の状況で様々である。医師にはチーム医療の一員としての役割が求められている。

4. 利用されるプログラムは作業療法などの常設のプログラムを主体とし退院を目指した企画的なプログラムが施行されている。ピアサポーターが参画するプログラムは患者のみならずスタッフの意識改革ももたらす。
5. 退院後の支援では、クライシスプランの作成、支援するスタッフやチームで対応するなどの工夫が見られる。
6. 地域との連携では病院のプログラムに地域の機関が参加する形式が多い。
7. 症例分析からは、多職種カンファレンスと評価尺度を用いることの重要性や個別の工夫の重要性が示唆される。

研究により得られた成果の今後の活用：好事例病院における長期入院患者に対する心理社会的治療／方策に関する今回の所見は定性的なものである。今後は得られた所見の一般性を確認するためのアンケート調査が必要である。また訪問地域では北海道と四国が抜けており他にも対象病院が少ない地域がある。今後これらの地域への訪問調査を行い、アンケート調査につなげていくことが望ましい。